

# 名古屋港の港湾機能の強化に関する要望

日頃は、名古屋港の発展のために、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

名古屋港は、平成19年の総取扱貨物量で2億1,560万トンを超え、6年連続で全国1位の座を確保するとともに、コンテナ取扱個数においては外内貿合わせて約290万個（前年比5.3%増）と、過去最高を記録致しました。

また、貿易額も16兆7,486億円と7年連続わが国港湾第1位であり、名古屋港は当地域の海の玄関として、着実な成長と発展を続けております。

一方、社会経済活動のグローバル化の進展や港湾間競争の激化などによって、わが国港湾を取り巻く環境は著しく変化しております。

とりわけアジアの主要港では、国を挙げて施設の整備とサービス水準の向上を図っており、相対的にわが国港湾の地位低下が危惧されております。

名古屋港は、当地域経済のみならず、日本経済のモノづくり産業を物流面で支える産業ハブ港として、今後さらに国際競争力を備えた利用しやすい港として整備していくことが大変重要であり、港湾機能の強化・拡充が必要不可欠であります。

つきましては、平成21年度の予算編成に当たりまして、下記事項につき、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

1. 国際競争力の強化に向け、コンテナターミナルの整備を推進すること

### ○飛島ふ頭南側コンテナターミナル

飛島ふ頭南側における次世代高規格コンテナターミナルについて、更なる機能拡充を図ること。

また、航行船舶の運行に必要な航路の整備を推進すること。

### ○鍋田ふ頭コンテナターミナル

急増するアジア・中国貨物に対応するとともに、大規模地震時に物流機能を確保するため、耐震強化機能を有する鍋田ふ頭コンテナターミナル第3バースの新規着手を図ること。

2. 鍋田ふ頭進入道路の整備を図ること
3. 堀川口水門・排水機場の改修を図ること
4. 中川運河緑地等の整備を図ること
5. 廃棄物埋立護岸の新規着手を図ること
6. 福利厚生施設整備への補助制度を創設すること

平成20年7月

名古屋商工会議所  
会頭 岡田邦彦

名古屋港振興協会  
会長 高橋治朗

名古屋港利用促進協議会  
会長 高橋治朗

名古屋海運協会  
会長 上島広一

名古屋港運協会  
会長 伊藤正

東海倉庫協会  
会長 木全英一